

公共性の再編成と不可視化する構造的弱者

— 在阪性的少数者団体におけるゲイ男性とトランスジェンダーの分断の事例から —

Reconstruction of the Public Sphere and Invisibility of the Structural Weak: From the Case Study of Division between Gay Men and Transgender Persons in a Sexual Minority Group in Osaka

戸梶 民夫 (京都大学大学院文学研究科 博士後期課程)

【ねらいと目的】

本企画は、ある在阪性的少数者団体 A におけるゲイ男性とトランスジェンダーの間の分断と（後者の）不可視化のプロセスの分析を通じて、アイデンティティに基づく社会運動の（近年のグローバル化・個人化の影響下での）分断／再編成過程の具体的諸相を明らかにし、それによって、より包摂的な公共的空間の可能性を探ることを試みる。この A 団体は、90 年代前半にゲイ・アイデンティティを軸とした運動・自助団体として立ち上がり、行政・メディアへの抗議活動、講演会等の企画開催、当事者の自助といった活動を行ってきた。そして、90 年代後半からのゲイ・アイデンティティの拡散過程と平行して、次第にトランスジェンダー、障害者といった多様な人々を含みこむクイア的団体として、その包摂範囲を広げてきた。

しかし、こうしたミックスの団体であった A は、00 年代後半から新たな再編成の過程に入り始め、内部で会を支える新中間層的なゲイ男性において、クイア的志向への批判と共に、ソーシャル・ネットワークに基づいた人員や資源動員運動への志向の高まりが起こりつつある。そしてこの再編成と平行して、共に会に存在していたトランスジェンダー（またゲイの障害者や失業者といった構造的弱者）が、会のイベントや役員への不参加、会報投稿の減少といった形で、徐々に内部で不可視化されてきているように思われる。本企画は、この団体 A において進展するソーシャル・ネットワークを通じた資源動員運動の方向への転換と、そのプロセスにおけるトランスジェンダー等の不可視化を実証的に調査することを通じて、グローバル化・個人化の流れの中で起こる公共性の分断／再編成と構造的弱者を不可視化する社会的圧力の存在を明らかにする。さらに、その過程において個人化された生き難さの再共有・可視化を可能にしうる、より安全な公共性の形を探ることを目的とする。

【活動の記録】

調査年月日：2009年6月～2010年1月

調査者：戸梶 民夫

調査地：大阪市、神戸市

調査目的：調査団体の企画運営活動に参加することで、参与観察を試み、内部で働くセクシャルマイノリティ間の力学を明らかにする。

【成果の概要】

本企画を通じて示されたことは、性的少数者団体 A において 2000 年代後半から明確化した、抵抗的言説を媒介とした内在的繋がりへの批判と、それに伴う A 団体内部の新たな繋がり創出過程である。変化の発端は、会内部で 2007 年度から「ジェンダー・フリー」「クイア理論」「ポスト構造主義」に対する（抽象的で非現実的といった）批判が頻発することにある。この時、こうした批判の一方で、「普通の人」が理解できる「現実的」な言説の重要性が提起された。この「普通の人」の繋がり、内在的な共感への批判（辛いと言うだけでは仕方がない）によって、それまで会内部で流通していた抵抗的言説をブロックしながら、他方で、被差別者としての抑圧経験を自己解決できる「一般人」としてのマジョリティ性を確認する実践から導き出された。しかしこの繋がり形式の発見は、トランスジェンダーを含む会員が A 団体全体の総会やイベントに集まらなくなるという結果を導いた。そのため会内の議論は、単に「ジェンダーフリー」等を批判して新たな繋がり確認する段階から、性的少数者を劣位化する外在的制度にどのように向かい合うかを考える段階に移行し、それに基づいて 2009 年度に直近の講演企画が打たれた。しかし、ここでも制度を変えることよりも既存の制度の中でいかに個人がそれをうまく使っていくか、という観点から主題が形成されるとともに、そうした制度からの排除を媒介として内在的にマイノリティとしての主体を立ち上げる方向は慎重に拒絶された。またこうしたテーマに対して、トランスジェンダーや一部の参加者からは、既存の制度を前提としそれを個人的に利用するという議論は実感にそぐわないという感想も出された。この一事例は、現在の公共性再編過程において、「外在的制度を利用できる個人同士の繋がり」が広がっていきながら、しかしその繋がり、シンボルを通じた内在的繋がり求める＜構造的弱者＞を不可視化してゆく、という問題の存在を示唆していると思われる。

